

平成29年度 山形美術館事業計画書

- 企画展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
漫画界のレジェンド 松本零士展	<p>松本零士(1938-)は、『銀河鉄道 999』や『宇宙戦艦ヤマト』『宇宙海賊キャプテンハーロック』など、宇宙を舞台とした SF 漫画の名作を生んだ「漫画界のレジェンド」とも称される巨匠である。60 年を超える創作活動の中で、アニメーション制作にも積極的に取り組み、若年層だけでなく大人も共感できる新しい表現手段のひとつとしてアニメーションを世に送り出した。また、欧米諸国においても作品の多くが熱狂的に愛されており、日本のアニメ文化を世界に発信した功績が高く評価されている。</p> <p>本展では、直筆の漫画原稿やアニメのセル画、立体模型などの資料も含めた約 300 点の作品を展示。世代と国籍を越えて、夢とロマンを与え続ける松本アニメの魅力を紹介する。</p>	4月1日(土) - 5月14日(日)	<p>一般 1,000円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜は中学生以下無料</p>
		<p>7月22日(土) - 8月27日(日)</p>	
日本の現代アート がここにある! 高橋コレクション ・マインドフルネス 2017	<p>鶴岡市生まれの精神科医高橋龍太郎氏は、1997 年頃から本格的に現代美術作品の収集を開始した。1990 年代以降の日本の現代美術を俯瞰できるコレクションとして、これまで国内外で展覧会が開催され、その重要さが認識されている。収集は現在も続けられ、その数は 2,500 点を超える膨大なものとなっている。</p> <p>本展では、高橋コレクションの原点である草間彌生にはじまり、1980 年代から 2000 年代を代表する辰野登恵子、島山直哉、奈良美智、村上隆、会田誠、山口晃、鴻池朋子、加藤泉、そして宮島達男、中山ダイスケ、近藤亜樹、高松和樹、梅津庸一ら東北芸術工科大学および山形にゆかりのある若手作家まで、日本の現代美術の多様な展開を紹介する。</p> <p>「マインドフルネス」という言葉は、「現実をあるがままに受け入れる、気づき」という意味である。そこには、東日本大震災を経験したわれわれこそ、アートに対する根源的な問いかけが必要である、との高橋龍太郎氏の強い願いが込められている。時代の心を映し出す高橋コレクションを通じ、日本の現代美術の醍醐味を鑑賞する機会とする。</p>	7月22日(土) - 8月27日(日)	<p>一般 1,000円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜は中学生以下無料</p>

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
再興第102回 院展山形展	1898年、日本美術院は岡倉天心、橋本雅邦、横山大観、菱田春草らによって、新しい時代の美術を樹立する目的で創立された。1914年に院展を再興し第1回展を開催して以来、本年で102回展を迎える。近代日本画の歴史と伝統を築いてきた同展には後藤純男、田淵俊夫、那波多目功一ら、現代の日本画壇を代表する作家が属している。また、福王寺一彦、大矢紀、川瀬磨士ら山形が生んだ院展作家の流れも脈々と受け継がれており、本県とは縁の深い展覧会である。 本展は東京展の地方巡回展として、院展同人の大作と受賞に加え、番場三雄ら東北芸術工科大学の教員、卒業生・在学生らの作品など約100点を展示し、日本画の現在と新たな歩みの方向性を紹介する。	11月9日(木) - 11月21日(火)	一般 1,000円 高大生 700円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料

- 3県展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
第72回 山形県総合美術展	山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招き、入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示公開する予定。併せて第59回こども県展を開催し、幼稚園から中学生までの児童生徒の絵を展示する。	9月2日(土) - 9月18日(月・祝)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料
第42回 山形県総合書道展	山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し、中央でも活躍している県書壇の重鎮による合同審査を行う。昨年は600点を越える応募があり、その中から厳選して優秀作をおよび入選作を決定した。上位入賞者の中には本展を足がかりに中央展で活躍する者もあり、県書道界の現時点の力量と将来への展望を示す展覧会となっている。	9月23日(土・祝) - 10月1日(日)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料
第52回 山形県写真展	山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家に審査を依頼して入選を決めたうえ、その中から入賞、準入賞、努力賞を選んで表彰する。近年、公民館や生涯教育のなかで写真教室が人気を集めるなど、カメラを手にする人が増えており、本年も2,500点を超す応募作品が予想される。	2月22日(木) - 3月21日(水・祝)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料

- 収蔵品によるテーマ展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
吉野石膏コレクション 印象派から エコール・ド・パリまで	当館収蔵品のなかで、吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より当館に寄託されている絵画コレクションは、印象派を中心に、ポスト印象派、エコール・ド・パリまで、きら星のごとく優品が揃っている。日本人にとっても馴染み深い、ピサロ、モネ、ルノワールら印象派の作品から、20世紀初頭のパリでそれぞれに独創的な作風を展開したマルケ、ヴラマンク、ユトリロ、ローランサン、そして藤田嗣治らを中心にフランス近代絵画の魅力を紹介する。	6月6日(火) - 6月25日(日)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料
家族のかたち展 高山辰雄〈聖家族〉 を中心として	吉野石膏コレクションの高山辰雄の代表作〈聖家族〉の版画・日本画42点を中心として、当館収蔵品から「家族」を描いた作品を取り上げて紹介する。人物を主題とする美術作品のなかでも、作者が「家族」を取り上げる時、そこにはさまざまな想いが込められていると考えられる。他者との距離感が曖昧な現代において、人と人とのあいだにかよいう身近な感情から、時代や地域をこえる普遍的な人間愛に至るまで、作品を通じて多様な「家族」のあり方に想いを馳せる機会とする。	12月13日(水) - 1月28日(日)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料

- 収蔵品展 -

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
収蔵品展	常設展 「巨匠の広場」/「吉野石膏コレクション - 珠玉のフランス近代絵画」/「新海竹太郎・竹蔵彫刻展示室」/ 「長谷川コレクション記念展示室」/「彫刻の小部屋」  ミロ・シャガール 収蔵版画展 平成29年10月5日(木)―10月9日(月・祝)	年間通し	一般 500円 高大生 300円 小中生 100円 ※収蔵品展によっては料金の変更あり。 ※土曜は中学生以下無料